

福島第一原子力発電所高台炉注水ポンプ近傍における 水の漏えいについて

< 参考資料 >
平成26年2月6日
東京電力株式会社

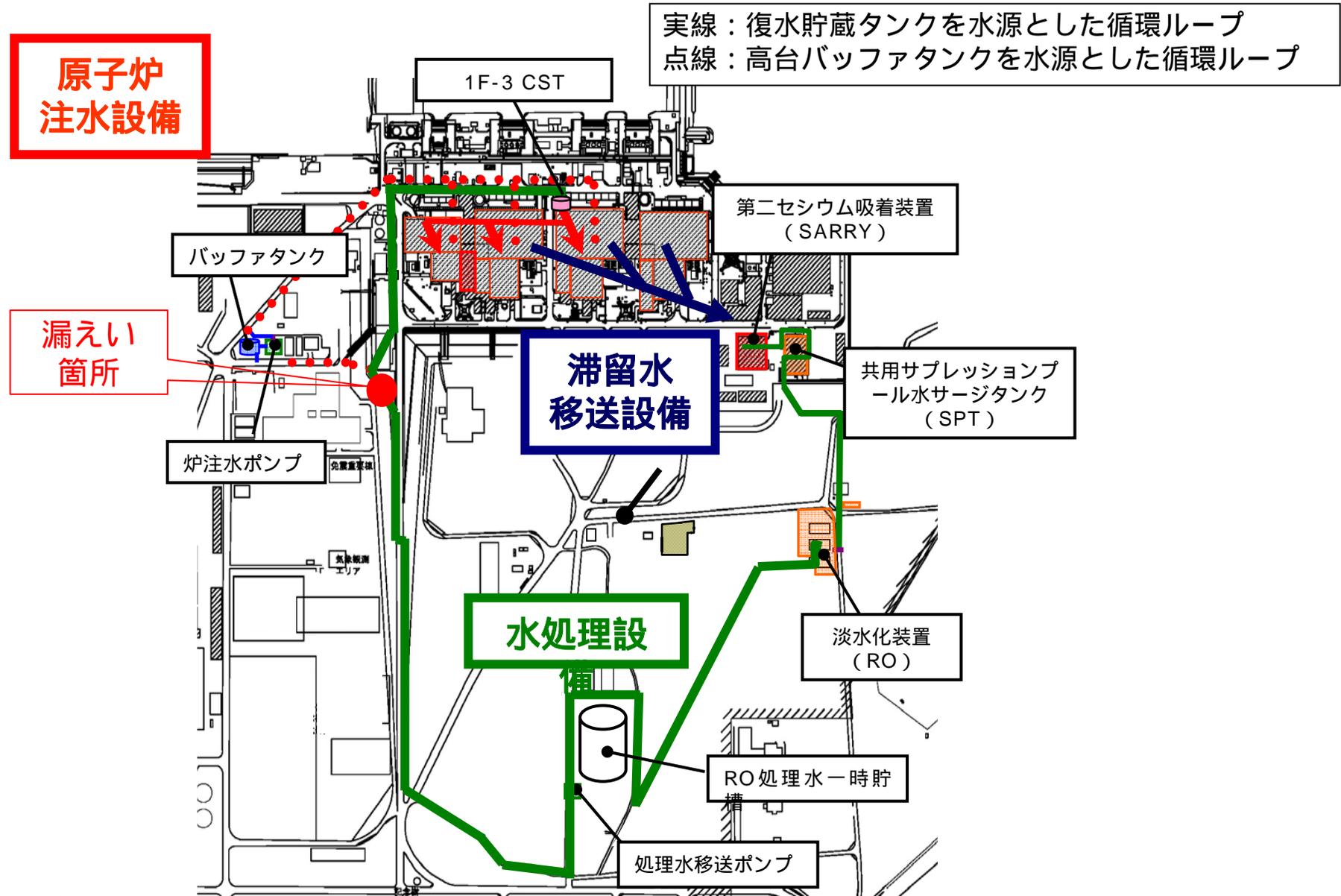
概要

- 日時：平成26年2月6日 11:05頃発見
- 場所：バッファタンクへの淡水移送ラインに設置されたストレーナの差圧計
- 時系列
 - 11:05 パトロール員（協力企業）が差圧計からの漏えいを発見。
 - 11:07 当該差圧計の元弁の閉操作を行い、漏えい停止を確認。
 - 14:20～15:20 土壌回収（約1m³）

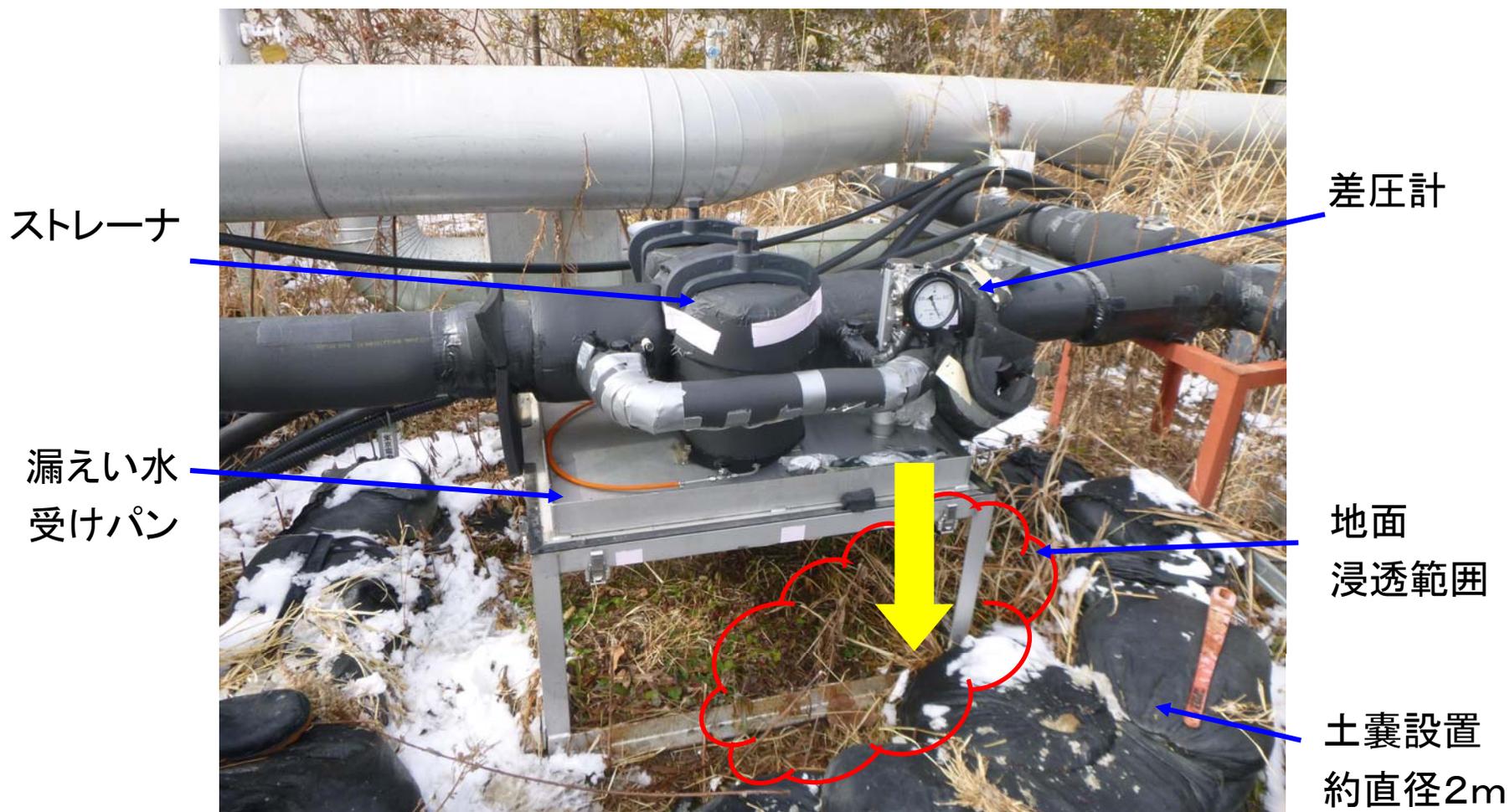
淡水化处理した後、原子炉注水として再利用する配管には問題はなく、
原子炉注水用のタンクへの水補給および原子炉注水への影響はない。

- 淡水サンプリング結果：全 2.8 × 10⁰[Bq/cc]（平成25年12月10日サンプリング）
- 推定漏洩量：約600リットル（全 約1.7 × 10⁶[Bq]）
- 推定原因：凍結により差圧計ボンネット部から漏えいが発生したものと推定。
- 対策：
 - ・漏えい部の土壌回収(2/6実施済，掘削部1.8m × 2m × 0.3m)
掘削前後の地面線量： + 0.24[mSv/h] 0.018[mSv/h]
(掘削後周辺雰囲気線量： + 0.12[mSv/h])，周辺(5m) 0.10～0.19[mSv/h]
 - ・当該部へのヒータ取付(2/6実施予定)
 - ・差圧計交換(3月中旬予定)

漏えい箇所の概略位置



漏えい発見時の状況（2月6日午前11時頃）

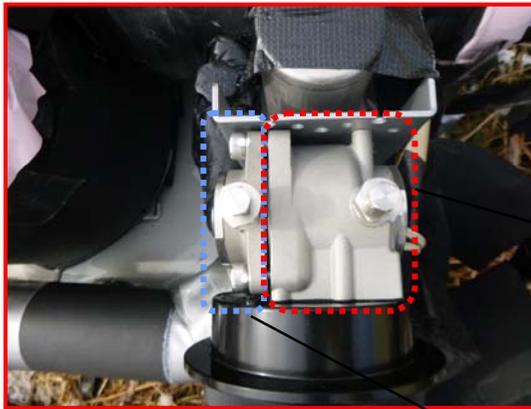


- 漏えい発見時は、漏えい受けパンより溢水しており、地面へ浸透

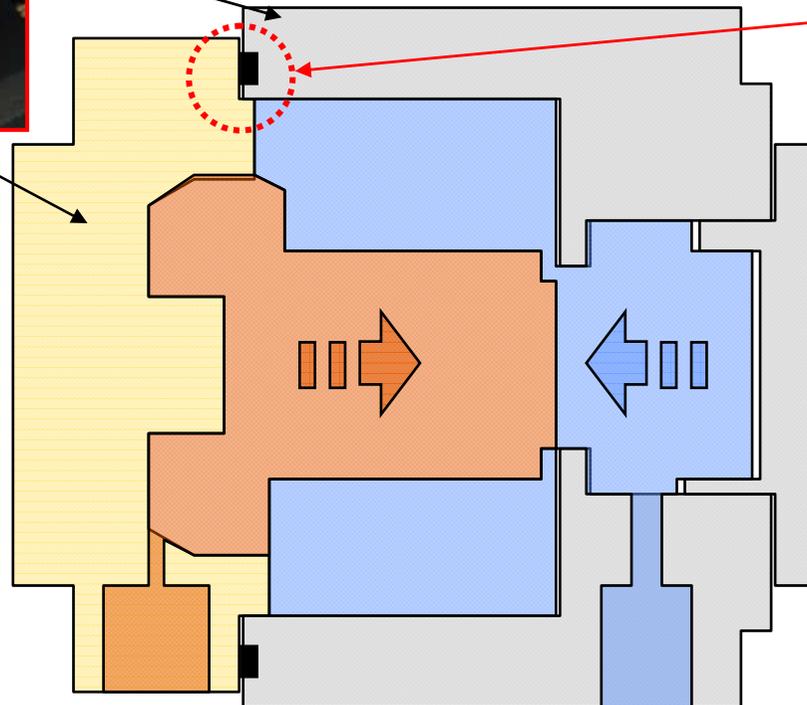
画像提供：東京電力株式会社
撮影日：平成26年2月6日

差圧計概略図

低圧側の水圧と高圧側の水圧により指示を出力する。
■部分と■部分は各々水で満たされており、
凍結により内包水の体積が膨張し漏洩に至ったものと推定

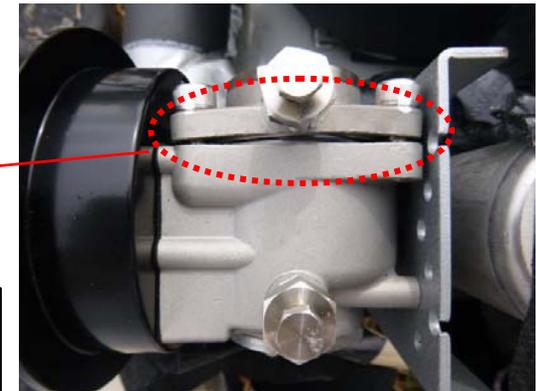


差圧計上部



低圧側

高圧側



差圧計取付部フランジより漏えい
(パッキンの飛び出しを確認)

以上